

企業 × 教育

少子高齢化や労働力不足など、肝付町の産業を取り巻く環境は厳しくなってきた。そのような中でも、町内の小中学校へ訪問授業や現場での体験学習を行っている企業があります。

今回はそのような企業の取り組みを3事例紹介します。



新村畜産 × 国見中学校

新村畜産は、昨年の6月に国見中学校の各学年に1頭ずつ子牛を贈呈しました。

子どもたちは、それぞれ学年ごとに「ひとみ」「つむぎ」「みるきい」と命名。学活や技術などの時間をを使って、近くの新村畜産の畜舎に足を運び、分娩から出荷まで牛たちを世話してきました。

畜舎では、慣れた様子で牛をなでたり、牛を連れて歩いたりする子どもたちの姿がありました。

子どもたちは「瞳がキラキラしてかわいい」「口からコーンポタージュみたいなおいがする」と普段なかなかできない体験に楽しそうにしていました。

約半年間、子どもたちに見守

られながら成長した3頭は2月15日、肝属家畜市場にてセリにかけられました。

セリ会場へは、学校を代表して、校長先生が市場に出向き、子どもたちはライブ中継で参加しました。

通常よりも少し短い発育期間での出荷となりましたが、3頭とも高額で取引され、特に1年



生の牛の「ひとみ」はその月の雌子牛で最高額を記録しました。3頭のセリが終わると、今までにない取り組みに、会場から大きな拍手が送られました。

そして、3月14日、国見中学校で、売上金の贈呈式が行われました。

子どもたちから、新村畜産と、牛をせり落とした「上別府種畜場」、「うしの中山」の3社へ、感謝状を渡しました。贈呈された売上金は、畜産業についての本や、これからの社会を考える本の購入に使われる見込みです。

半年以上にわたり携わってきた新村畜産の新村社長は、「地元にかかしたいとずっと思ってきました。この体験を通して子どもたちの中からまたいろいろな形で肝付町を支える人材が出てきてくれたら嬉しいです。」と語りました。

